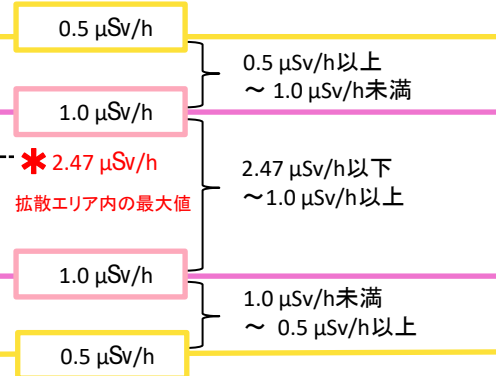


# 1時間あたり空間線量率(μSv/h) 放出開始(2016.04.14 PM7:00)から24時間後

《平均風速・風向》  
 福井県小浜観測所(地上高24.9m)の観測値 北 5.2 m/s  
 高浜発電所上空(地上高76.5m)の推計値 北西～北 7.5 m/s  
 《事故想定》高浜発電所・大飯発電所の各1炉が同時発災  
 放射性物質の同時放出  
 《拡散状況図の見方》



■ 0.5 μSv/hは、原子力災害(放射性物質放出時)における飲食物の摂取制限を判断するための基準値(緊急時におけるモニタリングポスト計測値の公表区分値)

### 拡散予測結果

**UPZ内の防護措置は、屋内退避(建物内での待機)**

避難となる地域(1時間当たり20μSv超の避難地域)はありません。

木造家屋内で屋内退避する場合、沈着した放射性物質からの放射線等の影響に対して60%の低減効果があるとされています。

### 《放射性物質の放出状況》

- 放出核種 セシウム ヨウ素
- 放出量 新規制基準は重大事故発生時に放出される1炉当たりのセシウム137の放出量を100TBq(テラベクレル)以下としている。今回の計算では、セシウム137が各発電所からそれぞれ最大の100TBq放出されたと設定し、その他核種は福島事故時のセシウム137の放出量に対する割合で設定。

【放出量(高浜・大飯各1炉)】※10時間に渡り均等に放出。  
 ・セシウム137 100TBq × 2炉 ・ヨウ素131 1,070TBq × 2炉 ・セシウム134 308TBq × 2炉 ※希ガスについても考慮